

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成19年度農作物病虫害発生予察情報について

平成19年度農作物病虫害発生予報第11号を公表したので送付します。

---

平成19年度農作物病虫害発生予報第11号

平成19年12月25日  
徳島県

## I. 野菜

### 冬春トマト

#### 葉かび病

##### 1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、発病度が 8.0で、ほぼ平年(17.9%、 4.8)並の発生であった。
- (2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 窒素質肥料の過用は避ける。
- (4) 薬剤は発病前から予防的に用いるとともに、葉裏に十分かかるよう散布する。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや少ない)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が11.0%、発病度が 0.4)。
- (2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。

- (2) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### オンシツコナジラミ

##### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年並)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、寄生葉率が0.6%で、平年(39.4%、7.5%)より少なめの発生であった。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### タバココナジラミ(バイオタイプB, バイオタイプQ)

##### 1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年より多い(前年より多い)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が40.0%、寄生葉率が6.4%で、平年(0.0%、0.0%)より多めの発生であった。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) コナジラミ類が発生している苗は使用しない。
- (2) 圃場周辺の雑草は増殖源となるので、除草を徹底する。
- (3) 施設開口部(出入り口、天窗、ハウスサイド)に0.4mm以下の防虫ネットを被覆し、昇温抑制のため循環扇を設置するとともに、紫外線カットフィルム(侵入防止)、黄色粘着紙(誘殺)、光反射マルチ(忌避)などの物理的防除法を活用する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。
- (5) バイオタイプQは、バイオタイプB(シルバーリーフコナジラミ)に比べ、ピリプロキシフェン剤(商品名:ラノー)、ネオニコチノイド系剤の一部(商品名:アドマイヤー、アクタラ、ダントツなど)、合成ピレスロイド系剤に対する感受性が低いことが報告されている。したがって、これらの薬剤による防除効果が低い場合は、他の薬剤に切り替える(有効な薬剤の種類については、平成18年12月20日付け平成18年度特殊報第1号を参照し、最新の登録内容を確認する)。
- (6) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (7) 栽培終了後は成虫の施設外への分散を防ぐため、薬剤防除を行ったうえで株を切断し、施設を密閉して蒸し込み、虫を死滅させる。

#### 冬春ナス

##### すすかび病

##### 1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病葉率が13.0%で、平年(41.3%、6.3%)よりやや多めの発生であった。
- (2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内

の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

#### ミナミキイロアザミウマ

##### 1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年より多い(前年より多い)

##### 2) 予報の根拠

(1)12月の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生葉率が18.3%で、平年(22.7%、3.0%)より多めの発生であった。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう、丁寧に散布する。

#### 冬春キュウリ

##### べと病

##### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

##### 2) 予報の根拠

(1)12月の巡回調査では発生圃場率が25.0%、発病葉率が4.0%で、平年(24.0%、2.1%)並～やや多めの発生であった。

(2)12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

(3)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行なう。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

##### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年より多い(前年よりやや多い)

##### 2) 予報の根拠

(1)12月の巡回調査では、発生圃場率が100%、発病葉率が36.3%で、平年(37.2%、6.6%)より多めの発生であった。

(2)12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)罹病葉は圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。

(3)同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

#### ブロッコリー・カリフラワー

##### 黒腐病

##### 1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年並(前年並)

##### 2) 予報の根拠

- (1)12月の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、発病度が4.3で、ほぼ平年(46.2%、4.7)並の発生であった。
  - (2)12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、発生助長的気象条件である。
- 3)防除上注意すべき事項
- (1)発生初期または降雨前後の防除に努める。
  - (2)害虫による食害痕は病原菌の進入経路となり発病を誘発するので、害虫駆除も適切に行なう。
  - (3)被害株をそのまま放置しておくとし、次期作の際に伝染源となるので、圃場外に持ち出し適切に処分する。

#### アブラムシ類

1)予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

2)予報の根拠

- (1)12月の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、寄生株率が16.7%で、平年(31.8%、6.0%)より多めの発生であった。
- (2)12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

#### コナガ

1)予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2)予報の根拠

- (1)12月の巡回調査では、発生圃場率が8.3%、10株当たりの幼虫及び蛹数が0.1頭で、ほぼ平年(19.0%、0.3頭)並の発生であった。
- (2)12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬剤散布は葉の裏側を重点的に行なう。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬レタス

##### 灰色かび病

1)予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2)予報の根拠

- (1)12月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が3.1%、発病株率が0.1%)。
- (2)12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)圃場の排水をよくする。また、トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2)収穫期には株元が繁茂して過湿となるので、発生しやすい。
- (3)発病株は伝染源になるので、できるだけ早く除去する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 菌核病

### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年より少ない)

### 2) 予報の根拠

(1) 12月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が18.6%, 発病株率が1.2%)。

(2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。

(2) 発病株を放置しておくとも多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや少ない)

### 2) 予報の根拠

(1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が10.0%, 寄生株率が0.4%で、ほぼ平年(3.2%, 0.3%)並の発生であった。

(2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

## 冬春ハウレンソウ

### べと病

#### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年より少ない)

#### 2) 予報の根拠

(1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が16.7%, 発病度が0.4で、ほぼ平年(17.3%, 1.2)並の発生であった。

(2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 品種は、本病レース1～7に抵抗性があるものを利用する。

(2) 葉が繁茂すると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

(3) 春先の病勢の伸展を抑制するため、薬剤は予防的に用いる。

(4) 薬剤は下葉や葉裏にもよくかかるよう、ていねいに散布する。

(5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

### 2) 予報の根拠

(1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が41.7%, 発生程度指数が0.7で、ほぼ平年(30.1%, 1.6)並の発生であった。

(2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、

やや発生抑制的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

## 冬春イチゴ

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.6%で、ほぼ平年(10.8%、0.7%)並の発生であった。
- (2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期の発生圃場率が1.3%、発病果率が0.02%)。
- (2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

### アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや少ない)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、寄生株率が3.4%で、ほぼ平年(14.0%、2.4%)並の発生であった。
- (2) 12月21日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

### ハダニ類

#### 1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 12月の巡回調査では、発生圃場率が64.3%、寄生葉率が10.6%で、平年(17.3%、2.5%)より多めの発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## II. その他

- 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守して下さい。

### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199

ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報，発生状況，防除法等をお知らせしています。